

流行ニュース:<鳥インフルエンザ、中国(更新¹)>

中国衛生部は2005年12月9日、H5N1型の鳥インフルエンザウイルスのヒトにおける新たな症例を確認した。この症例は遼寧省の養鶏に従事している31歳の女性で、10月30日に発病し、重症の肺炎および急性呼吸不全として治療を受け、その後回復し、11月29日に退院した。本症例の場合、当初の検査結果ではH5型ウイルスの感染は陰性であった。その後、微量の中和抗体検査を実施して、血清抗体価が4倍以上に上昇したことから、鳥インフルエンザに感染したと確定診断がくだされた。

10月末に中国当局は、遼寧省において高病原性H5N1型鳥インフルエンザの複数の集団発生を報告した。調査により、本症例は、鳥インフルエンザに感染した家禽に直接接触することによる死んだ鳥からヒトへの直接感染であることが示唆され、中国農業部当局は、遼寧省で採取した家禽の標本からH5N1型鳥インフルエンザウイルスを確認した。

予防措置として、地方当局は女性の接触者を医学的監視下においた。インフルエンザ様疾患の徴候が検出されず、全ての接触者は監視下から解放された。

本症例は、中国での5人目の症例であり、うち2人は致死性的であった。中国では安徽省、雲南省、広西省、遼寧省で感染が報告されている。 参照¹: No.49/50,2005,p.425

<鳥インフルエンザ、タイ(更新¹)>

タイ保健省は2005年12月9日、H5N1型鳥インフルエンザウイルスのヒトへの新たな感染を確認したと発表した。感染したのはNakhonnayokに住む5歳の男児であり、11月25日に発病し、12月5日に入院、同7日に死亡した。

本症例についての綿密な調査は現在進められており、当初の結果から、男児は近所で飼育されていた鶏の死体から鳥インフルエンザウイルスに感染したことが示唆されている。男児の家族や近隣住民は、医学的監視下にあり、現在のところ健康である。

男児は、今年タイにおいて実験室内で鳥インフルエンザによる感染であると確認された5番目の症例であり、2番目の死亡例であった。2004年1月より、タイでは22名が鳥インフルエンザに感染し、うち14名が致死性的であったと報告されている。 参照¹: No.47,2005,p.410

<黄熱、コートジボアール(更新¹)>

2005年12月7日、ブルキナ・ファソとの国境付近で黄熱の集団発生があったという報告後、黄熱の流行したBouna地区のDoropoを対象とした大規模なワクチン接種が行われた。このワクチン接種は100%の接種率で、26,114名に接種が行われた。

この地域における黄熱伝播の危険性を低下させるため、Bouna地区やその周辺地区などのワクチン未接種の住民290000人を対象とした予防接種キャンペーンがヨーロッパ人道支援局(ECHO)の支援により12月末に計画されている。 参照¹: No.39,2005,p.334

<黄熱、スーダン(更新¹)>

スーダン連邦保健省は、12月6日、South Kordofan州で流行している黄熱の症例数が565例(死亡143例、致死率25.3%)であることをWHOに報告した。症例はSouth Kordofan州の各地で発生しており、現在、症例数は減少している。12月4日にKadugliの人口の82.2%とSouth Kordofan州全域の19.8%を対象としたワクチン接種が実施された。

WHO、赤十字国際委員会、国際赤十字赤新月社連盟、国境無き医師団、MEDAIR、UNICEFは、連邦や州の保健省と協働して、ワクチン接種、社会動員、媒介生物の制御、症例管理、サーベイランス、研究室の援助を推進している。また、WHO国際的感染症対策ネットワークより国際チームが派遣され、協力に当たっている。欧州委員会人道援助局(ECHO)は予防接種キャンペーン、治療、サーベイランス、媒介生物駆除活動のために200万ユーロを提供する予定である。 参照¹: No.48,2005,p.418

<80巻、2005年1号-52号までの索引>

Subject index、国/地域別 index、国際保健規則に準じる疾患の公告 (WER 参照)

<WHOの各感染症に関する web sites 一覧> (WER 参照)

流行ニュースの続報:(インフルエンザ)

カナダ: 第48週目、2つの集団発生がAlbertaおよびBritish Columbiaから報告された。

アメリカ合衆国: 局所的な流行がネブラスカ州で報告された。

(中渡瀬友里、多淵芳樹、宇佐美眞)